

平成 26 年度 第 2 回人権読本ぬくもり第 3 版検討委員会 議事録

- 1 開催日時 平成 26 年 10 月 31 日(金) 16:00～17:45
- 2 開催場所 教育委員会会議室
- 3 出席委員 9 名
- 4 傍聴人 なし
- 5 議事

【記録】

【委員】

「長崎がピカッ」について。

テレビで空爆の状況が映し出されて原爆の話に繋がっているが、空爆と原爆とでは意味が異なるので設定修正。「おばあちゃんの中から、大つぶのなみだがたくさんこぼれ落ちていました。」の部分には余韻を残す工夫を。

【委員】

「鳴らないスマホ」について。

「返信が遅かったリナに次のようなメッセージを送った。」という部分があるが、これをきっかけにして全員が返信しなくなる。リナに送ったメッセージなので工夫を。

「山田孝野次郎と水平社」について。

「えた」という言葉は、社会科では「えた身分」「ひにん身分」という形で出てくることが多いので工夫を。

【委員】

「言葉について考える」について。

先生を登場させずに自主的な動きにはどうか。

【事務局】

「言葉について考える」について。

「ぼく」が『ガイジ』と言われて嫌だったのはなぜだろう。そのときは気付かなかったけれど、ぼくの心のどこかに、障がいのある人と同じにされたといういら立ちがあったのではないだろうか。ぼく自身に、障がいのある人に対する差別の心があったのではないだろうか。」と内省する部分を追加している。

【事務局】

「言葉について考える」について。

「ガイジ」と言われた子どもが泣きながら自宅に帰った事例があった。「ガイジ」という言葉が許せなかったのか、障がい者と同じ扱いを受けたことが許せなかったのかで意味が異なる。このような背景もあって、子どもたちに考えさせる部分を入れている。

【委員】

同和問題に関する 3 題材について。

水平社宣言は自分の言葉で読むことが大切。多くの人が部落差別をなくそうとがんばっていることを知ることで、自分にもできることがあるのではという捉え方ができ、そのことが中学校に繋がる。

【委員】

小学校では、子どもたちは水平社宣言についてどの程度勉強するのか。

【委員】

原文に当たっていた時期もあったが、分かりやすく書き換えたもので学ぶことが多い。水平社を扱う場合、宣言を学習する例や結集した人々の気持ちに着目する場合もある。

【事務局】

約 20 年前は原文で授業していた学校が多かったが、子どもの実態から考えると難解だ。最近、原文以外の教材で教えるという実践がある。

水平社宣言の一部を切り取って載せているのは、新しい授業の在り方の提示という意味もある。

【委員】

『エタ』という差別的な呼び方をされる」という記述が先にあって、次に「エタであることを誇り得る」という記述になっている。その逆転を子どもたちにどのように理解させるかが課題だ。

【委員】

日本初の人権宣言とあるが。

【委員】

人権宣言は、フランスの人権宣言のように国家の中に人権がどのように位置づけられているかの問題だ。ここでは趣旨が少し違うとは思いますが、この表記でよいと思う。

【委員】

水平社、山田孝野次郎、水平社宣言などの視点がありうるが、いずれかの視点に絞らないと、それをやさしい言葉に言い換えた場合拡散の恐れもある。

【事務局】

社会科という観点から見ると、これは社会運動の 1 つなのでそれが全国に広がっていったという押さえは必要かと思う。

【委員】

社会運動と捉える場合、この時期は労働運動、農民運動も活発になってくる。それとの有機的な連関が見えるのであれば、社会運動の視点で絞り込んで、水平社がその先陣を切ったという流れはありうる。

水平社宣言に絞り込んでいくこともありうるが、その場合の書き方については議論があると思う。

どこに重きを置いた教材にするか。山田孝野次郎については、資料が少なく人物像を広げづらいので象徴的に触れるしかない。

【委員】

差別を受けた人がそれを我慢し沈黙しているのではなく、その悔しい思いを運動として広げて行こうという気持ちが子どもに伝わればいいのではないか。それ以外の内容は、時間の制限と発達段階を考えると難しい。

【事務局】

重要なのは賤称語指導をどうするのかという点だ。えた身分からの解放ではなく、えた身分として差別から解放されることが必要で、「全国に散在する吾が特殊部落民よ團結せよ。」と敢えて使っているという理解だ。そこに着目させながら賤称語を指導して行きたい。

【委員】

「ぬくもり」の中での賤称語指導は、教育委員会の姿勢として打ち出しているものであり、そこを踏まえて執筆されているが難しさもある。

【委員】

賤称語指導であるという原点に戻ると、「吾々がエタであることを誇り得る時が来たのだ。」という部分にはもう少し説明が必要。身分からの解放ではなく「エタ」ということにこだわって誇りを持って生きていくという転換に説明が必要。

【事務局】

山田孝野次郎から入って水平社宣言に触れ、全国的な広がりにつなぐ構成では範囲が広すぎる。再検討したい。

【委員長】

“役割”が次第に忌避されてきた経緯はあるが、その“役割”に対する誇りがあった。重要な役割を担ってきたという点につなげたい。

【委員】

校内研修で水平社について学習する様子を見てきたが、こちら側の意図とは異なる実践もある。

【事務局】

教育委員会が作成して教育委員会が発行するのだから、学校現場に趣旨を周知すべき。

【委員】

賤称語の意味を転換して誇りを持つという点は学校現場であまり徹底していない部分なので、教育委員会主導ということは重要。

【委員】

障がい者差別問題について市に条例案を提言する作業を行っている。駐車スペースなど先人たちの努力によって改善したこともたくさんある。明るい側面もあるので、障がい者として歩いてきて良かったことも出していくべきだ。

【委員】

賤称語が逆転して、尊厳に結びつくという教材ができればいいと思う。同和問題だけではなく、障がい者問題に関しても、マイナスのイメージだけでなく、様々なプラスの面があることが伝わる教材になればよい。

【委員長】

以上で本日の検討員会を終了する。